

☆簡易レインウェアの作り方☆ 坂部（母） 2009.5.16

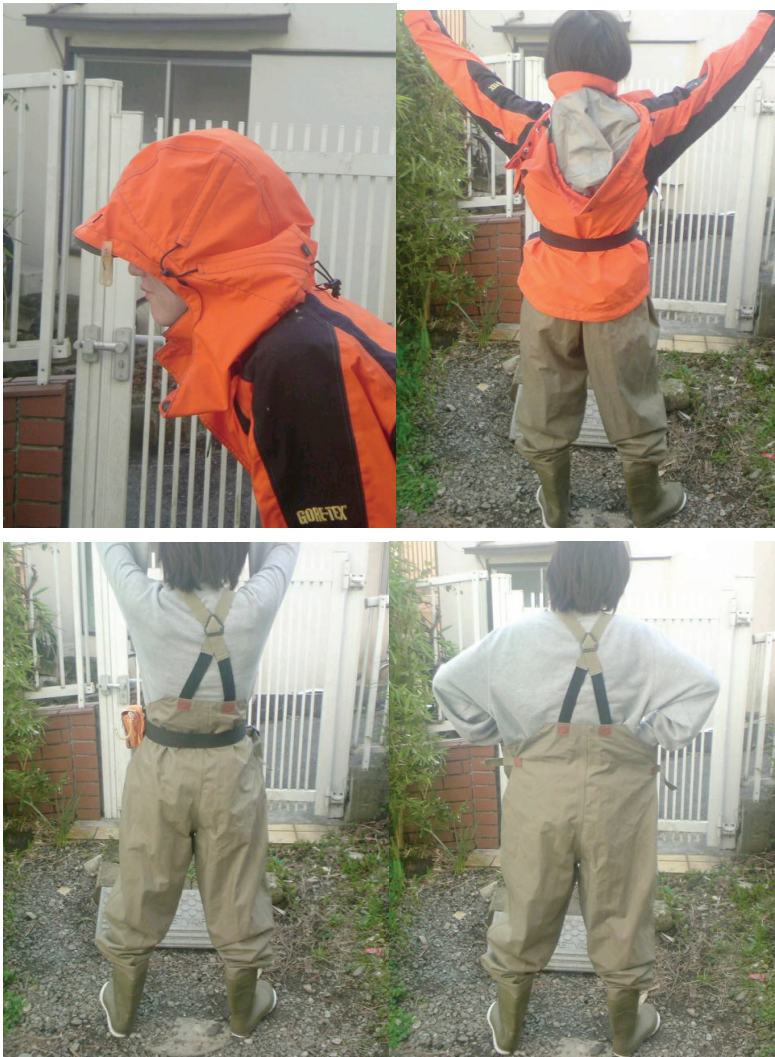
必要なのは、45リットルのポリ袋二枚。
一枚は、貫頭衣のように、頭と腕を出す切れ目を入れます。
これだけでも、ウインドブレーカーの役割を果たしてくれます。
一枚は、片方の長い辺を全部と底を四分の三位、切り開いて、切り残した角を三角帽子のようにかぶって、顎の下で、左右に分かれた袋を結び合わせます。
雪ん子のようにかわいいですね。
キャップをかぶっていると庇が雨よけになって具合がいいです。
この時、結ぶ分だけ、切れ目を入れると結びやすいです。
ポリ袋は、ゴミ捨てに使うだけではありません。
敷物になったり、海辺で拾った戦利品を入れたり、空気を入れて口を結べば浮き袋代わりになったり、と色々活躍してくれます。
小さくて切れ味の良いこんなハサミがあるので、キーホルダーに付けておくと、便利ですよ。

写真提供：モデルさんのお父さん



☆ウエーダー着こなし術☆

ドライスーツから、ウエットスーツやウエーダーが活躍する季節になりました。
ウエーダー（胴長）は、大変便利ですが、弱点があります。
特にチェストハイ・ウエーダーは、脱着しやすいように開口部に余裕がある造りになっていますから、油断して波をかぶったり転んだりすると一瞬で浸水します。
水がたっぷり入り込んだウエーダーは、簡単に脱ぐことができません。立ち往生したり、海の中で起き上がれなくなることもあります。
野島の黒鯛フリークたちは、腰まで立ち込んだり、頭から波飛沫をかぶって釣りをするので、こんな風にウエーダーを着ています。



ウエーダーの上から、レインウェアを着て、ウエストの辺りをベルトで締めます。

こうすれば、雨や波しぶきが上着を伝ってウエーダーの中に入り込む事はありません。

ウエストをベルトでキュッと締めていると、無意識のうちに腰より深い所に踏み込むこともないように思います。

一発大波をくらったり、転んだり穴にはまったりしても、このようにしておけば、大量の浸水までにタイムラグがあるので、体勢を立て直せます。

ベルトがなければ、荷造り用の紐だっにかまいません。レインウェアがなければ、ポリ袋利用の簡易ウインドブレーカーでも十分。

雨の日は、レインウェアのフードを洗濯バサミでキャップのひさしにとめておくのもお勧め。

私の仲間は安全性と機動性優先なので、見てくれは常に四か五の次くらいですが、海ではそれでいいと思っています。